

2019年度 特定非営利活動法人地域福祉サポートちた事業報告

1 事業実施の概略

特定非営利活動法人地域福祉サポートちたは、福祉の増進と地域社会の発展に寄与するため、地域福祉を担う市民としての意識の高い人材を養成する事業や市民活動を支援する事業を行っている。2025年に向けて基礎自治体ごとの「0歳から100歳の地域包括ケア」の実践を目標に立て、今年度は多様な主体との連携により、「福祉事業所における災害時の事業継続計画（BCP）づくりに向けた共同学習事業」を実施する等、持続可能な地域づくりに寄与した。また、さわやか福祉財団主催「共生社会をつくる地域包括ケア ～生活を支え合う仕組みと実践～」を学び、さらに、日本福祉大学主催「ニッセイ財団研究プロジェクト」の一部プロジェクト事務局を担うことで、法人のミッションを多くの市民に伝え、地域包括ケアの理解を深めた。

具体的には、当法人の定款第5条第1号の事業として、介護職員初任者研修、喀痰吸引等第3号研修、行動援護従業者養成研修、強度行動障害支援者養成研修基礎・実践課程等の福祉人材育成、また自治体行政職員や民生委員、サービスマーケティング、プロボノ等対象すべてがNPO現場体験型を基盤にした人材育成研修、定款第5条第2号の事業として、知多市市民活動センター管理、手づくりカフェの運用を含むNPO事務局支援、知多市のまちづくり担い手育成や若者チャレンジ支援等の市民活動支援事業、定款第5条第3号の事業として会報発行等の情報交流促進事業、定款第5条第4号の事業として、大学、市民団体や行政等が行うNPOやまちづくり講座への講師派遣やまちづくり審査会等への参加、定款第5条第5号の調査・研究・提言事業として、地域包括ケアにおける多職種連携教育／研修モデルの構築などを行った。また、これまでの組織強化の成果として非営利組織のためのグッドガバナンス認証(2019G(0)0010)を取得した。

2 事業の実施に関する事項

『特定非営利活動事業』

I 人材育成

I-1 福祉人材育成

安心と豊かさを実現できる在宅サービス、地域福祉を担うヘルパーを育成
(県の認定に準じたカリキュラムの実施)

(1)

介護職員初任者研修(通信)	実施形態	自主事業	収益	3,093,200円
			費用	2,418,007円

[事業内容]

介護に携わる者が、業務を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うための研修。

日程	場所	内容	受講者数
6/12-9/18	名古屋短期大学	・講義と演習(130時間) ・施設等での実習(6時間)、修了試験	3人
12/26-3/24	日本福祉大学美浜キャンパス	・講義と演習(130時間) ・コロナ感染症対策として実習を取りやめ4時間の振り返り講義に変更、修了試験	29人
合計			32人



(2)

介護職員フォローアップ研修	実施形態	自主事業	収益	6,000円
			費用	2,000円

[事業内容]

介護職員初任者研修等の資格所有者を対象にした学び直し及びスキルアップのための研修。

日程	場所	内容	受講者数
8/20-9/9	名古屋短期大学	講義:「職務の理解」「介護の基本」「認知症の理解」他	1人
2/15-3/12	日本福祉大学美浜キャンパス	演習:「こころとからだのしくみと生活支援技術ⅠⅡⅢ」から希望科目を受講	3人
合計			4人

(3)

喀痰吸引等研修<第三号研修(特定の者)>	実施形態	自主事業	収益	976,078円
			費用	780,862円

[事業内容]

- ・介護職員が施設や居宅において、たんの吸引や経管栄養を行うための研修。
- ・喀痰吸引等研修実施委員会の設置及び運営。

開催日 1月10日 開催場所 魚白(知多市)

出席者 中島一光(いきいき在宅クリニック院長)、森田貞子(すみれ訪問看護ステーション 管理者)、戸田愛(いのちのきらめき畑事務局(市野恵、山森英津子))

日程	場所	内容	基本修了者	実地修了者
6/14、21	知多市市民活動センター	・基本研修:重度障害児・者等の地域生活に関する講義、障害及び支援、緊急時の対応及び危険防止に関する講義、	10人	14人
12/3、11	知多市市民活動センター	喀痰吸引等に関する演習 ・実地研修(対象者宅他)	8人	16人
合計			18人	30人

(4)

行動援護従業者養成研修	実施形態	自主事業	収益	627,000円
			費用	501,600円

[事業内容]

行動障害が著しい人の危険回避のために必要な援護、外出時の移動支援を行うための研修。

日程	場所	内容	受講者数
1/18、19、25、2/2	知多市市民活動センター	※強度行動障害支援者養成研修基礎研修、実践研修と同科目	19人

(5)

強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	実施形態	自主事業	収益	2,169,300円
			費用	1,735,440円
		委託事業(半田市地域福祉課)	収益	370,755円
			費用	370,755円

[事業内容]

行動障害が著しい人を支援する方を対象に、障害特性の理解と適切な対応を学ぶ。

形態	日程	場所	内容	受講者数
自主	5/12、19	知多市市民活動センター	講義:基本的理解、制度及び支援技術の基礎的な知識	40人
自主	7/28、8/4	知多市市民活動センター	演習:基本的な情報収集と記録等の共有、固有のコミュニケーションの理解、行動障害の背景にある特性の理解	40人
委託	11/10、12、15	常滑市役所		58人
自主	12/1、8	知多市市民活動センター		37人
自主	3/7、8	知多市市民活動センター		中止
合計				175人

(6)

強度行動障害支援者養成研修(実践研修)	実施形態	自主事業	収益	646,800円
			費用	517,440円
	実施形態	委託事業(半田市地域福祉課)	収益	312,660円
			費用	312,660円

[事業内容]

介護施設などで3年以上の実務経験を有する指導的立場にある職員を対象に、支援計画や手順書の作成を行う。

形態	日程	場所	内容	受講者数
委託	7/11、18	アイプラザ半田	講義：強度行動障害がある者へのチーム支援、強度行動障害と生活の組立て	12人
自主	11/3、10	知多市市民活動センター	演習：障害特性の理解とアセスメント、環境調整による強度行動障害の支援、記録に基づく支援の評価、危機対応と虐待防止	31人
合計				43人

[担当者のふりかえり]

- ・介護職員初任者研修(通信)は、名古屋短期大学(豊明市)での受講者数が大変厳しい状況となり、2019年度をもって開催終了する。日本福祉大学美浜キャンパスは、近隣市町からの一般参加もあり、昨年度に比べ受講者数が増加となった。
- ・喀痰吸引等研修(第3号研修)は、開始当初に比べ、実地研修のみの受講が増加傾向にある。退院後も医療的ケアが必要となる方の生活を支えるために複数の事業所でヘルパー育成が急務となっているため、2020年度は定員枠を広げて開催していく予定。
- ・開講から5年目を迎えた強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)については、同一施設から継続した受講が目立つ。また、知的障がい者の地域生活を支える保護者、相談員、作業療法士、看護師等の受講も増えている。新型コロナウイルス感染症対策の影響により、3月の開催を中止した。(山森英津子)

I-2 NPO人材育成

(1)

NPOマネジメントセミナー	実施形態	委託事業	収益	132,000円
		((一財)非営利組織評価センター)	費用	132,000円
		助成金事業((一財)ペガサス財団)	収益	364,000円
			費用	414,156円




[目的]

- ・(一財)非営利組織評価センター(以下、JCNE)が開発したグッドガバナンス認証制度を学ぶことにより、組織の信頼性向上をめざし、組織基盤強化に向けた取り組みのきっかけとする。今年度は、行政にも呼びかけを行い、地域における組織評価・認証制度への理解と普及促進を行う。
- ・近年日本各地で様々な災害が発生する中、愛知県では南海トラフ巨大地震等大災害の危険を抱えている。こうした災害が発生したとき、福祉サービスの中断により人々の生活や健康に大きな支障をきたす恐れがあるとして、福祉事業所は対策を立てておく必要がある。本事業は、在宅サービスを行うNPO法人等を対象に、災害時の利用者の状況把握、復旧体制の整備、事業継続の方針等に関わる計画(BCP=Business Continuity Plan)の必要性を啓発し、加えて、先行事例を参考にした共同学習会を行う。

[開催場所]

知多市市民活動センター

[事業内容] 参加者数:延べ32人

形態	日程	テーマ・講師	内容	参加者数
委託	8/8	組織評価でわかる 信頼され持続できるNPO 講師：山田泰久(JCNE)	①組織評価の意義とその背景 ②「組織評価・認証」制度説明会 ③自己診断シート 「組織を支える17の視点」紹介 	14人
助成金	11/23	福祉NPOのための防災計画 事業継続計画(BCP)セミナー はじめの一歩編 講師：鍵屋一(危機管理教育研究所) 進行：星野広美(VNS) 事例報告：渡邊千恵(りんりん)	福祉事業における災害時の事業継続計画(BCP)作りに向けた共同学習事業  	18人

[担当者のふりかえり]

- ・愛知県を含む8自治体9人の自治体職員、認証を目指す団体関係者などが参加し、NPOに対する専門性、協働、地域運営などの期待がある中、NPO自体の信頼度を高めるためには第三者による組織評価が有効であり、そのために非営利組織の特性を考慮した評価・認証制度があるとして、組織評価への理解を広めることができた。(伊藤裕)
- ・BCPを取り組み始めた(N)りんりんから、介護支援(訪問/通所)に対するトライアージを決定する際に合意形成の難しさを伺った。これを機に、(N)ボランティアネイバーズと(N)レスキューストックヤードの協力の下に講演会を開催した。事後、参加された数団体から防災委員会を立ち上げ、部門会議にてBCPを作成したとの報告を受けた。次年度は、本事業で作成したガイドブックをもって学習会を展開していく予定。(市野恵)

(2)

日本福祉大学 NPO協働型サービスラーニング	実施形態	委託事業(日本福祉大学)	収益	695,000円
			費用	695,000円
		委託事業(日本福祉大学)	収益	10,840円
			費用	10,840円

[目的]

1980年代にアメリカで始まった「サービスラーニング」は、社会活動を通して市民性をはぐくむ教育活動である。日本福祉大学では2009年4月から取り組み始め、学生が知多地域NPOでの活動の経験を授業内容に連結させ、将来、一人の市民として地域の問題解決に取り組む力を身につけることを目指す。



[事業内容]

①大学とNPOとの協働を推進するコーディネイト業務

- ・サービスラーニング受け入れNPO団体との調整(28団体、学生97人)
- ・サービスラーニング受け入れNPO団体との意見交換会 参加者数:教員3名 受け入れ団体11名
7/3 知多市市民活動センターにて、菊池遼先生(日本福祉大学社会福祉学部助教授)をお迎えし、講義「サービスラーニングに期待すること」の後、岡本先生より「サービスラーニングの意義について」、山崎先生より「教員、受け入れ団体の立場からみたサービスラーニングについて」お話を伺った。その後、夏の活動や学生の対応等について意見交換を行った。
- ・本年度より、研究報告会(12月)への参加は任意となった。



②山崎紀恵子ゼミ生の受け入れ(2人)【テーマ:Ada-coda啓発、シェフ獲得を目指して】

[活動実績]

	日程	活動場所	内容
1	5/31	日本福祉大学美浜キャンパス	顔合わせ
2	6/12	法人事務所	サービスラーニング事前訪問 打ち合わせ
3	8/6	知多市市民活動センター	活動日①活動スケジュールを考える イベントチラシ作成
4	8/22	知多市市民活動センター	活動日②グリーン・ラソへ見学 お客様アンケート作成
5	8/23	知多市市民活動センター	活動日③シェフヘインタビュー Ada-coda掃除
6	8/28	知多市市民活動センター	活動日④チラシ作成(シェフ募集用) 食材確認 買い出し
7	8/29	知多市市民活動センター	活動日⑤Ada-coda営業(20食) シェフ啓発チラシ作成
8	9/27	日本福祉大学美浜キャンパス	3者リフレクション
9	10/19	日本福祉大学美浜キャンパス	活動報告会
10	12/13	日本福祉大学美浜キャンパス	研究報告会

[担当者のふりかえり]

- ・SL教員・担当者交代もありつつ10年が経過した。受け入れ団体、学生の両者にとって学び多い事業ゆえに教員、受け入れ団体の意識を共有できるコーディネイト業務が重要と感じている。(江端智子)
- ・感じた課題の解決に向けて、どんな活動をするか、学生と話をしながらどう整理し、引き出していくか、こちらも学ぶ機会になった。2人での活動は大変な部分もあったようだが、企画し、実行するプロセスが、彼らの今後に繋がったと期待する。(竹内由香理)

(3)

インターン受け入れ	実施形態	委託事業(愛知県、大府市)	収益	0円
			費用	38,000円
	実施形態	委託事業(名古屋短期大学)	収益	36,000円
			費用	29,000円

[目的]

当法人の業務体験や研修・会議出席等の機会の提供、会員法人での現場体験等を通じて、NPOの理解、協働を学ぶ。

[事業内容] 日数:延べ68日

日程	受け入れ	人数	実績
7月～12月	愛知県採用2年目職員	10人	4日間 延べ40日
10月	大府市職員	2人	5日間 延べ10日
2月	名古屋短期大学現代教養学科1年	2人	9日間 延べ18日



[担当者のふりかえり]

法人の理念や業務を通じて活動状況を知ってもらうことで、NPOへの理解を深めてもらうことが目的であるが、法人としても行政や学生の多様な考え方を知る機会にもなっている。(安藤千栄子)

(4)

行政職員研修	実施形態	委託事業 (武豊町、知多市、東海市、一宮市)	収益	437,520円
			費用	437,520円



[目的]

住民の福祉の増進を図ることを基本とする地方自治体職員の姿勢を自ら考える機会として、協働の必要性を理解し、NPOの設立の経緯や取り組みの事例及び、協働による地域課題の解決の成果を学ぶ。

[事業内容] 参加者数:延べ84人

対象・参加者数・会場	日程・テーマ	内容
(武豊町役場) 2年目職員12人 秘書広報課1人 計13人 武豊町民会館ゆめ たらうプラザ	9/26 社会背景(NPOの活躍と協働の必要性)を知る 武豊町提案型共同事業から行政の役割を考える 協働相手の思いや活動を共有することから役割分担を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 「NPOの基礎知識と知多地域の特性(社会背景)」 ・講義 「市民のチカラでまちづくり～ゆめたらうプラザの運営～」 (講師:高橋洋子((N)武豊文化創造協会)) ・制度説明 「武豊町提案型協働事業」企画政策課 ・講義 「知多半島で発達障がいの子どものとその家族の世界を広げるために」 (講師:土肥りさ((N)PakaPaka)) ・2019年度提案型協働事業(祠峯公園を楽しむ会) ・グループワーク
(知多市役所) 2年目職員33人 企画部職員課2人 計35人 知多市市民活動セ ンター及び視察先	10/16 豊かな市民活動を求めて活動するNPOの目線とその成果を理解する 市民とともに協働のまちづくりに取り組む、行政の役割を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 「NPOの基礎知識と知多地域の特性(社会背景)」 ・視察 (N)市民大学ちた塾、知多市生涯学習課、(N)ゆいの会、南粕谷ハウス ・グループワーク



(東海市役所) 1年目職員20人 企画部職員課1人 計21人 東海市役所及び視察先	11/1 協働の理解(社会課題の解決(公益活動)をするNPOの存在を知る)	・講義「社会背景と知多地域のNPOについて」 ・視察 とまと記念館(N)LET'S食の絆・東海市健康推進課、(N)新青樹(中ノ池プレーパーク)、(N)東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛 ・グループワーク	
(一宮市役所) 職員(公募)15人 市民協働課1人 計16人 知多市市民活動センター及び訪問先	11/22 NPO基礎と協働の理解	・視察 知多市市民活動センター、(N)知多地域成年後見センター、とまと記念館(N)LET'S食の絆、東海市健康推進課、南粕谷ハウス、(N)ごんのふるさとネットワーク	

[担当者のふりかえり]

協働で大切なことは、ビジョンを共有し、多様な意見や思いを尊重しあえる関係づくりにある。実際にNPO現場の声を聞くことで、行政の在り方や自分たちの業務に活かせることは何かをグループで話し合いながら確認した。(安藤千栄子)

(5)

ふくしコーディネーター研修	実施形態	委託事業((N)あいちNPO市民ネットワークセンター)	収益	569,140円
			費用	569,140円

[目的]

(N)あいちNPO市民ネットワークセンタースタッフを対象に事業理解と現場対応力の向上を目指す研修。

[事業内容] 参加者数:延べ48人

	日程	内容	場所	参加者数
1	6/17	ファシリテーション研修 講師:水谷香織(パブリックハーツ株式会社)	みよし市市民活動センター	12人
2	8/26	あいネットが目指すビジョンとは?	みよし市市民活動センター	11人
3	10/23	地域づくりの視点 事例:五十嵐美代子(生活支援コーディネーター)	みよし市市民活動センター	6人
4	12/18	現場視察研修	花のき村じば工房 (認N)絆	10人
5	2/17	これからのあいネットを考える	みよし市市民活動センター	9人



[担当者のふりかえり]

3年間のスタッフ研修最終年の今年度は、ワークで考えや想いを発信、共有する時間を積み重ねたことでスタッフ同士の関係が構築され、相談し合いながら進めていく土壌づくりができた。スタッフが成長に気づき、前向きに取り組む姿勢や具体的に何ができるか明確になってきたことは研修の成果といえる。代表理事の新谷氏から、今後も年に1、2回程度現場視察研修を行いたいと要望が出ている。(竹内由香理)

(6)

高齢者地域コミュニティ参加促進事業	実施形態	委託事業(愛知県福祉局高齢福祉課)	収益	678,500円
			費用	678,500円

[目的]

高齢者の社会参加を促進するため、家族なども対象とするなど参加しやすいように配慮した通いの場をモデル事業として3カ年実施し、設立方法、実施内容などをまとめ県内全域へ普及することを目的とする。



[事業内容] 参加者数:延べ117人

	日程	場所	内容	参加者数
1	11/30	南粕谷ハウス	いざという時の防災講座 バッククッキングとアロマキャンドルづくりと防災講話	30人
2	12/22	南粕谷ハウス	音楽鑑賞会 参加者が持ち寄ったレコードを聴きながらケーキとお茶をいただく	25人
3	1/13	南粕谷ハウス	みんなで新年会 飲食を中心にしたおしゃべりサロン	47人
4	2/16	南粕谷ハウス	陶芸教室 おしゃべりを楽しみながらオリジナルマグカップづくりと軽食サロン	15人
5	3/14	知多市こども未来館	暮らしの保健室 新型コロナウイルス感染症対策のため、中止	中止

[担当者のふりかえり]

高齢化率40%を超える南粕谷地区で、住民が多世代の交流の場を自主運営する南粕谷ハウスとの協働により、住民への声掛けや対応を把握しながら開催することができた。また、サロン参加者との関係性ができた後に、この地区の生活支援コーディネーターを受託する(N)だいこんの花との協働開催だった暮らしの保健室は、残念ながら新型コロナウイルス感染症対策のため、中止した。(市野恵)

(7)

人財育成事業	実施形態	委託事業(ちた人財・志事ツクール推進ネットワーク)	収益	200,200円
			費用	200,200円

[目的]

地域課題解決の担い手を育成するため、ワーク・ライフ・バランスをとりながら活動する女性の話やSDGsの概要とプロボノ活動事例から、得意なことを活かした関わり方を知るとともに、参加者同士のネットワークづくりを促進、具体的な行動を始めるきっかけの場とする。



[事業内容]

	日程	場所	内容/講師	参加者数
1	2/15	知多市ふれあいプラザ	ウィズセミナーby人財・志事ツクール「女性のためのコト起こし講座」 講師:原田さとみ(エシカル・ペネロープ(株)取締役) パネラー:伊藤友加子(株)Gu・RADO代表取締役、片山麻有((一社)BumpyCompany代表理事)、富田敬子(パステルアートセラピー講師)	25人
2	2/29	知多市市民活動センター	「SDGsを知る講座～人生が豊かになるプロボノってなに?～」 講師:戸成司朗((一社)中部SDGs推進センター代表理事、(N)中部プロボノセンター共同代表理事) ※新型コロナウイルス感染症対策のため中止	中止

[担当者のふりかえり]

知多市男女共同参画センターウィズとの協働事業として、“自分らしく”が選択できる生き方をテーマに前半は、地域の課題解決型の活動や事業によって起業した経緯を伺った。後半は、全員が車座になって意見交換したことで、まちづくりの原点を共有することができた。(市野恵)

I-3 NPO現場視察研修

(1)

現場視察研修	実施形態	委託事業(次頁表内7団体)	収益	650,502円
			費用	607,661円

[目的]

市民活動の自発活動、草の根の活動の現場を知り、NPOを理解するという観点からNPOの現場を訪問して、現場を体感し、学習する研修。

[事業内容] 参加者数:延べ116人

日程	委託団体/研修先	参加者数
7/11	知多市東部地区民生・児童委員 (N)PakaPaka、(福)むそう、(N)子どもたちの生きる力をのばすネットワーク、(一社)BumpyCompany	18人
7/16	愛知県社会活動推進課、他 (N)ゆいの会、南粕谷ハウス、(N)PakaPaka	12人
7/24	安城市社会福祉協議会 作野地区 (N)ゆいの会、南粕谷ハウス	15人
10/17	知多市八幡地区民生・児童委員 (N)りんりん、(N)PakaPaka、(認N)絆 グリーン・ラソ	27人
10/25	一宮市市民活動支援センター (N)知多地域成年後見センター、とまと記念館((N)LET`S食の絆、東海市健康推進課)、南粕谷ハウス、(N)ごんのふるさとネットワーク	14人
1/21	阿久比町社会福祉協議会「粋なり! オヤジ塾」 (N)もやい、南粕谷ハウス、手づくりカフェAda-coda、ちたざつくやろう会	14人
2/21	豊明市民交流センター 南粕谷ハウス、みんなの縁がわ	16人



[担当者のふりかえり]

- ・知多半島の「困ったときはお互い様」から始まった活動を見学するため、知多半島外からの視察も多く、「高齢者や若者といった枠にとらわれず、地域づくりには全体を見る視野が必要だと気づいた」との感想があった。
- ・社協や地域の役職員研修として活用された。現場の声を直接聞くことで、地域活動における現状と課題を知ることができ参加者からは「まだまだ自分の地域について知らないことが多いことに気づいた」との声が上がった。(安藤千栄子)

II 情報・交流促進事業

II-1

ニュースレター発行 法人リーフレット発行	実施形態	自主事業	収益	0円
			費用	284,100円

[目的]

地域福祉サポートちたの事業報告・イベント案内・会員団体情報などのほかに、福祉・NPO・市民活動情報等を、会員、学生、行政、社協、市民に発信する。

[事業内容]

発行物	時期、部数	配布先
ニュースレター 「SUPPORT NEWS」	年4回(4月、7月、10月、1月) 各回 350部	会員・会員団体、 愛知県内福祉・協働部署、 愛知県内社会福祉協議会、 県外NPOセンター各所
法人リーフレット	年1回6月改訂 2000部	



SUPPORT NEWS



法人リーフレット

II-2

WEBサイト管理	実施形態	自主事業	収益	0円
			費用	264,935円

[目的]

当法人の情報発信(事業内容、講座、開催イベント等の広報)を行う。

[内容]

URL <https://sunnyday-cfsc.ssl-lolipop.jp/>

年間アクセス数 23,375回(2019/4/1~2020/3/31)



[担当者のふりかえり]

8年ぶりにトップページのデザインをリニューアルした。次の課題はスマホ対応にすること。(久田富二子)

II-3

会員交流会	実施形態	自主事業	収益	7,171円
			費用	18,763円

[目的]

会員の課題解決、活動の方向性を考えるために必要な情報の提供を行うとともに、会員相互の懇親を図り、情報交換の機会をもつことで、NPOの発展に寄与する。



[事業内容]

日程	場所	内容	参加者数
5/30	知多市市民活動センター	講演会 & 交流会「在宅の暮らしを支える多職種連携」—知多半島圏域の医療と介護と福祉を考える— 講師: 藤井博之先生(日本福祉大学社会福祉学部教授)	39人

[担当者のふりかえり]

今回は、行政、常滑市民病院の医療関係者にも多数ご参加いただいた。医師でもある藤井先生より「虐待」を防ぐための多職種連携教育として発展したイギリスの事例について伺い、連携の必要性を共有した。(市野恵)


II-4

会員リーダー研修	実施形態	自主事業	収益	2,000円
			費用	30,754円

[目的]

ソーシャル・インクルージョン(「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念)の考えのもとに地域づくりを学び、ネットワーク交流・親睦を深める機会とする。

[事業内容]

日程	場所	内容	参加者数
9/9-10	大阪府立国際会議場 (グランキューブ大阪)	いきがい・助け合いサミットin大阪 テーマ「共生社会つくる地域包括ケア—生活を支え合う仕組みと実践—」	9人
11/8	知多市市民活動センター 	NPO学びあい育ちあい意見交換会2019 —いきがい・助け合いサミットin大阪の学びを知多地域に広げよう— ゲスト: 松下典子、五十嵐美代子(さわやかインストラクター) 報告者: 渡邊千恵((N)りんりん)、山崎紀恵子、中村希代美((認N)絆)、 下村一美、山口正昭((N)ゆいの会)、市野恵((N)サポートちた)	13人

[担当者のふりかえり]

住民の互助活動である「たすけあい」の重要性を再認識することができた。また、刻々と変化する私たちの暮らしを支えるための安心できる地域づくりには、多様な主体と協議する必要があることが確認された。(市野恵)

II-5

愛知県内支援センター情報交流会	実施	VNS、運営協力との協働体制	収益	0円
			費用	3,010円

[経緯・目的]

2008年度、支援センター等の公共施設がNPO等の民間運営が進む中、各市町の地域連携の一助になるようにと犬山市民活動支援センター「しみんてい」と当法人(当時代表)の呼びかけより、センターの運営方法や助成金制度、自治基本条例の有無等の各市町の協働環境調査を行い、これらを基に情報交換が始まった。

今年度は、「愛知県NPOと行政の協働のための実務者会議」で議論された地域課題解決のためにアウトリーチの必要性を踏まえて、支援センターの在り方について情報共有を行う。

[事業内容]

日程	場所	内容	参加者数
7/5	あいちNPO 交流プラザ	大交流会「センターは誰と共に創っていくのか ―何のため、どんな関係づくりの元に―」をテーマに、「市民による課題解決活動をより活性化していくために、センターは地域の主体との関係づくりにどう取り組むか」を切り口に情報交流を行った。 話題提供 A(大口)地域課題と団体マッチング B(碧南)防災のための連携づくり C(名古屋)大学生が参加・参画するボランティアマッチング D(豊田)福祉施設と生涯学習団体のマッチング E(瀬戸)子育て世代の市民活動参加の推進 F(犬山)若い世代のセッションの場づくり G(蒲郡)実行委員会を通じた人材づくり 運営体制は、上記話題提供した支援センター・中間支援・行政により実施	50人
3/10	あま市市民 活動センター	小交流会は、あま市主催の2月に実施したアンケートを基に意見交換する 新型コロナウイルス感染症対策のため開催中止	中止

[担当者のふりかえり]

- ・今年度の大交流会はVNS事務所に集結した有志が大交流会を企画した。当日の話題提供は、各支援センターの協力を仰ぎ、さらに会場は、愛知県より提供され開催した。
- ・小交流会の開催地に挙手したあま市は、センター開設当初に市民にセンターの存在を知ってもらい、市民活動のすそ野を広げるべく活動していたが、開設5年を経過しセンターの在り方を検討したいとして県内全支援センターにアンケートをとり、集計されたようだ。その結果が次年度に活かされるようにつなげていきたいと思う。(市野恵)

II-6

法人20周年記念事業	実施形態	自主事業	収益	217,500円
			費用	1,206,093円

[目的]

12月1日に法人設立20周年となることを記念し、これからの地域福祉を語り合う場として20周年記念事業を実施する。

[事業内容]

「次世代とともにこれからの社会を考える」をテーマとする、20周年記念講演会を開催した。理事を中心とした実行委員会を立ち上げ企画を進めた。また、アトラクションや映像準備は、会員の力をお借りした。また、チラシデザインや当日の運営は、デンソープロボノ、アンビシャスネットワークを通じての学生ボランティアの協力を得られた。

当日は、来賓として愛知県および知多地域市町の首長(代理含む)を招待し、また当法人歴代役員、会員、その他の皆さん、法人スタッフを合わせ計218人が参加した。

日程	場所	内容	参加者数
12/15	知多市勤労文化会館 やまももホール	<p>テーマ「次世代とともにこれからの社会を考える」</p> <p>①オープニング 13:00~13:45 アトラクション どれみふぁらソ♪((認N)絆) 映像「20年の歩み」</p> <p>②講演会 14:00~15:30 幸せのメカニズム -幸福学入門- 講師:前野隆司(慶應義塾大学大学院教授)</p> <p>③パネルディスカッション 15:40~17:00 NPOのメカニズム ファシリテーター:三矢勝司((N)岡崎まち育てセンター・りた) パネラー:松下典子((認N)ゆいの会) 出口晋((N)ゆめじろう)、 土肥りさ((N)PakaPaka)</p>	218人



実行委員会の開催 延べ21人(7/19、10/16、11/13) 会場は法人事務所

[担当者のふりかえり]

20周年という大きな節目の行事ということで、雲をつかむような状態だったが、企画、準備の段階から大変多くの皆さんの支援、協力をいただき、開催することができた。また、当日は会場いっぱいのお客様を迎えるなか、滞りなくプログラムを進めることができたが、これもデンソープロボノの皆さんや、ボランティアの学生の支援のおかげと感謝している。(伊藤裕)

Ⅲ 調査研究・提言事業

Ⅲ-1

男女共同参画行動計画基礎調査	実施形態	委託事業(知多市子ども若者支援課)	収益	999,900円
			費用	999,900円

[目的]

平成22年策定した「知多市男女共同参画行動計画～ウイズプランⅡ～」が2020年度で終了することから、2021年度からスタートする「知多市男女共同参画行動計画～ウイズプランⅢ～」の策定するための基礎調査を行い、男女共同参画に関する現状、住民ニーズと今後の施策課題を把握する。事業所アンケートは、市内事業所における女性の活躍状況と取り組みを把握する。

[事業内容]

前回調査(平成21年度)からの男女共同参画について住民の意識の変化をみるとともに、女性活躍の観点等の国・県の動向を踏まえた調査を行うため、住民で構成された検討委員会を運営し、住民および市内事業所用調査票を設計した。調査票の配布、回収を経て、回答の集計を行い、再度検討委員による結果の分析、検討、課題整理を行って、調査報告書を作成した。



項目	内容
住民対象調査	対象 知多市在住の、15歳以上の男女(配布数 2,000通) 結果 子育て、仕事と家庭、女性活躍、地域活動、高齢期、DV、LGBT、男女共同参画センターウイズ、男女共同参画社会 回収数 702通(回収率 35.1%)
事業所対象調査	対象 知多市に事業所のある企業等(配布数 100通) 結果 女性従業員数、女性の定着、女性の活躍、女性の継続就業、女性の管理職、女性活躍推進のために行政に期待する施策 回収数 31通(回収率 31.0%)
検討委員会の開催	①7/15、②1/14、③3/5 ※新型コロナウイルス感染症対策のため書面検討に切り替え 委員会構成 6人(各年代から男女一名ずつ)、担当課3人、事務局3人 開催場所 知多市市民活動センター
成果物(納品)	回収調査票一式、集計データ、住民調査50部、事業所調査50部

[担当者のふりかえり]

前回調査と比べ、男女共同参画の意識は少し進んでいるが、家事、育児、介護などでは女性の担う割合は高く、男女の意識の違いもある。女性が社会で活躍するためには、制度の活用や周りへの理解促進が必要。また、子どもを預けられる環境なども不足しており、子育ての両立などのワーク・ライフ・バランスの実現は困難な状況。今回、初めてLGBTについて聞いたが、メディア等でも取り上げられているなどで認知度は高く、性別ではなく個人を重視する考え方にもつながっていることがわかった。(伊藤裕、早川純子)

Ⅲ-2

「在宅医療・介護連携推進のための研修会のモデル開発」研究プロジェクト	実施形態	委託事業(日本福祉大学地域ケア研究推進センター)	収益	1,713,275円
			費用	704,315円

[目的]

地域包括ケアにおける多職種研修について、知多半島5市5町の実態を明らかにし、在宅医療・介護連携推進のための研修会のモデル開発を行うことを目的とする。

[業務内容]

- ①5市5町における多職種研修事業における地域概要調査・作成事務
- ②「在宅医療・介護連携推進」のための多職種研修会のモデル開発に関する事務
 - (1)多職種研修モデル開発のためのワークショップ開催における日程調整・企画運営・コーディネート・記録作成
 - (2)先進地との情報交換の場における日程調整・企画運営・コーディネート・記録作成
- ③事業完了後の報告書編集、印刷、製本(50冊)



[事業内容]

日程	場所	内容	参加人数
4月	知多5市5町 行政	在宅医療・介護連携推進事業における多職種研修の実際と課題について訪問調査	—
7/22	日本福祉大学 東海キャンパス	在宅医療・介護連携推進のための多職種研修を考えるWS(第1回) 調査報告:藤井博之先生(日本福祉大学社会福祉学部教授) 意見交換①「報告を受けて」 講義:多職種連携状況を測る評価尺度について 藤井先生 意見交換②「私たちが考える“うまい連携とは?”」	16人
8/30-31	長野県佐久市 佐久病院小海分院	長野県南佐久6力町村の在宅医療連携拠点事業から学ぶ移動WS 車中講義、意見交換 講義:南佐久病院の取組 由井和也先生(地域医療部長) 宮原みゆき(MSW)、6力町村の保健師	9人
10/9	知多市市民活動センター	在宅医療・介護連携推進のための多職種研修を考えるWS(第2回) ふりかえり:藤井博之先生 ワーク①「皆さんの仕事場とお住まいは？」 ワーク②「地域共生社会資源(抄)マップづくり」 ワーク③「広域で取り組む課題」	15人
2020 1/23	知多市市民活動センター	在宅医療・介護連携推進のための多職種研修を考えるWS(第3回) テーマ「入退院支援」について 藤井博之先生、中村栄美子(半田保健所) ワーク①「入退院時における多職種間の問題点を洗い出す」 ワーク②「多職種研修のあり方を議論する場の継続について」	11人

[担当者のふりかえり]

各市町の病院、在宅診療、訪問看護、施設等の資源やが異なるため、各市町が足並みをそろえた研修モデルの構築は難しいが、今後は、先進連携事例や共通する課題を相互に学び合う機会が提供できるように働きかけたい。(市野恵)

Ⅲ-3

地域福祉計画担当者研修	実施形態	委託事業(日本福祉大学地域ケア研究推進センター)	収益	1,542,920円
			費用	620,043円

[目的]

社会福祉法改正後の新地域福祉計画策定のノウハウ、進行管理上の課題について共有し、包括的支援体制を構築することを目指す。

[業務内容]

- ①地域福祉計画策定研修・包括的支援体制研修の開催運営に関する事務
 - (1)地域福祉計画策定進行管理研修におけるデータベース入力
 - (2)地域福祉計画策定進行管理研修・包括的支援体制研修における日程調整・企画運営・コーディネート業務・記録作成
- ①共生社会の実現公演会の開催運営に関する事務
 - (1)公演チラシ作成
 - (2)公演企画運営



[事業内容]

日程	場所	内容	参加人数
9/27	日本福祉大学 東海キャンパス 対象 行政・社会 福祉協議会職員	地域福祉計画策定進行管理研修「0歳から100歳の地域包括支援体制の構築を目指した地域福祉計画」 講義①「新・地域福祉計画と包括的支援体制」 原田正樹先生（日本福祉大学地域ケア研修推進センターセンター長兼副学長） 講義②「4市5町の地域福祉計画の紹介」 講義③「事例、氷見市の取り組みについて」 森脇俊二（氷見市社会福祉協議会事務局次長） グループワーク①「地域福祉計画の課題」 グループワーク②「包括的支援体制の課題」	28人
11/6	日本福祉大学 東海キャンパス 対象 行政・社会 福祉協議会職員	包括的支援体制研修「0歳から100歳の地域包括支援体制の構築を目指した地域福祉計画」 講義①前回ふりかえり 末永和也先生（日本福祉大学経営学部医療・福祉マネジメント学科助教） 講義②「事例、地域共生社会の実現に向けて—藤沢市における包括的支援の取り組み—」片山睦彦（藤沢市福祉健康部長） グループワーク「課題解決にむけた方策について」 講義③グループワークの結果共有と今後について 原田正樹先生	25人
12/7	東海市しあわせ村 多目的ホール 対象 一般市民	共生社会の実現公演会「生笑一座」 「助けて」という事の大切さや、新しい出会いによって生き、またいつか笑える日が来る、というメッセージを伝える公演	101人

[担当者のふりかえり]

確認不足により関係者の皆様にご迷惑をおかけすることがあり、改めてお詫びします。本研修を通じて、各職種の理解不足だけでなく、組織体制の未整備が連携を阻む現状を知った。原田先生による制度の解説、そして先進事例は、連携を可能にする具体的な裏方術を伺った。また、生笑一座では、ホームレスを経験したからこそ見えた心の壁、それを乗り越えたからこそその真実があり、「人としての生き方」が問われていると感じた。（市野恵）

Ⅲ-4

しごとづくりプロジェクト	実施形態	委託事業（日本福祉大学地域ケア研究推進センター）	収益	127,930円
			費用	63,900円

[目的]

世代別のニーズに対応できる様々な機能を付加した0歳から100歳のしごとづくりサロンを設立し、住民主体で運営するしくみづくりを構想。これに、障がい者雇用が生まれる羽毛循環システム（Green Down Project）の取り組みを学ぶ公開研究会の啓発を行う。

[業務内容]

公開研究会のチラシデザイン及びチラシ印刷（500部）、配布等の啓発。
知多半島関係機関への開催要項の送付。



Ⅳ 啓発相談事業

Ⅳ-1

フードバンク意見交換会	実施形態	セカンドハーベスト名古屋、常滑市社会福祉協議会、当法人との協働開催	収益	0円
			費用	0円

[目的]

2013年9月にスタートしたフードバンク活動が知多地域の食のセーフティネットとして持続可能な仕組みづくりを目指すよう意見交換を行う。

[事業内容]

9/12 知多市市民活動センター 参加者数:23人

セカンドハーベスト名古屋(以下、2HN)山内大輔さんより、法人のミッションに加えて2018年度の知多地域におけるフードバンク活動の現状についての報告がなされた。次いで、常滑市社会福祉協議会(以下、常滑社協)山下圭一さんより、知多地域のフードバンク活動の契約主体が2HNから社協へ変更に関する申請書類の説明ののち、これに対する質疑応答がなされた。

[担当者のふりかえり]

従来は、食品受領団体と2HNとの契約だったが、今年度から、常滑社協との契約へと変更されることになった。大きく変更した点は、知多地域のフードバンク活動が安定的に継続できるよう会費制(年会費3千円)で行われることになった。また、この活動が始まって丸6年が経った今は、食品受領団体の大半が2HNを支える会に加入し、さらには2HNの拠点へ直接食品を受領する団体が増えるなど、食の流通が地域の中に定着してきている。(市野恵)



IV-2

講師/各種検討委員等派遣	実施形態	行政	収益	72,280円
			費用	40,630円
		民間	収益	100,500円
			費用	56,107円

[目的]

大学、市民団体、行政等が行う福祉、市民活動支援、まちづくり、協働等へのコーディネート、講師、委員などの派遣を行い、地域福祉や市民活動の活性化を図る。

[事業内容]

	依頼元	日程・内容	派遣者
(1) 大学等講師派遣			
1	日本福祉大学国際福祉開発学部1年	4/19 現代福祉 講義「知多半島のNPOと地域づくり」	市野恵
2	日本福祉大学社会福祉学部1年(行政・人間福祉/こども・医療)	6/27 社会福祉入門 講義「地域における福祉実践-NPO-」	市野恵
(2) 行政・各種団体講師等派遣			
1	愛知県社会福祉協議会	あいちシルバーカレッジ 講義「地域社会とNPO」豊橋(5/15)、東海(6/10)、一宮(7/8)、名古屋B(7/11)、岡崎(1/10)、名古屋A(2/4)	市野恵
2	知多翔洋高校「まちの先生」	10/3、10/17、10/31、11/7、11/14、11/21、12/5	山森英津子 竹内由香理 安藤千栄子
3	安城市作野地区社会福祉協議会	4/26 講義「我が事丸ごと地域共生社～ちた型0～100歳のまちづくり～」	市野恵
4	安城市西部地区社会福祉協議会	5/11 講義「我が事丸ごと地域共生社～ちた型0～100歳のまちづくり～」	市野恵
5	岩倉市ボランティア連絡協議会	5/14 講演「豊かな人生を送るためのボランティアの楽しみ方」	市野恵
6	岩倉市老人クラブ	11/27 講演「豊かな人生を送るためのボランティアの楽しみ方」	市野恵
7	(N) 中部プロボノセンター	1/11 第7期プロボノメンバー研修 講義「地域福祉とボランティア活動」	市野恵

(3) 各種検討委員会等委員派遣			
	依頼元	日程・内容	派遣者
1	愛・地球博地域社会貢献基金成果調査ヒアリング	(9/10)	市野恵
2	愛知県NPOと行政の協働に関する実務者会議	(3/17)	市野恵
3	次期あいちビジョン有識者懇談会県民生活分科会	(10/2、12/24)	市野恵
4	子どもゆめ基金専門委員会	(12/23、3/9)	市野恵

5	尾張旭市自治会等活動促進助成事業:候補選定会議5/31/審査会(6/15)/中間発表(1/18)	市野恵
6	みよし市産後ホームヘルプ事業協議会(7/30、3/13)	市野恵
7	知多北部広域連合 介護保険事業計画推進委員会5/31、8/5)	市野恵
8	知多市総合計画審議会(4/23、7/9、8/23、11/12)	市野恵
9	知多市都市計画マスタープラン策定委員会(8/20、2/10)	市野恵
10	知多市特別職報酬等審議会(12/19)	市野恵
11	知多市生活支援協議体委員会(6/12、8/23、11/27、2/19)	市野恵
12	知多市ちた人財・志事ツクール推進ネットワーク会議(6/10)	市野恵
13	知多市若者支援地域協議会(6/6)	市野恵
14	知多市子ども若者支援者ネットワーク推進会議(4/24)	市野恵
15	知多市子ども子育て会議 地域連携部会(8/7、3/6)	市野恵
16	知多市市民活動センター運営会議(4/3、5/8、6/5、7/3、8/7、9/4、10/2、11/6、12/4、1/7、2/5、3/4)	伊藤裕 山森英津子 幸前洋子 竹内由香里
17	知多市市民活動センター連携会議(4/10、5/13、6/14、7/24、8/19、9/20、10/18、11/15、12/20、1/24、2/25、3/23)	市野恵 竹内由香理
18	全国NPO 事務支援カンファレンスin東京	市野恵
19	SDGs学文社出版記念式典(2/6)	市野恵
20	愛知県知多警察署協議会	山森英津子
21	知多メディアネットワーク株式会社 メディアスエフエム番組審議会(5/8、7/10、9/11、11/27、1/22)	市野恵
22	知多メディアネットワーク株式会社 メディアス番組審議会(10/11)	安藤千栄子

IV-3

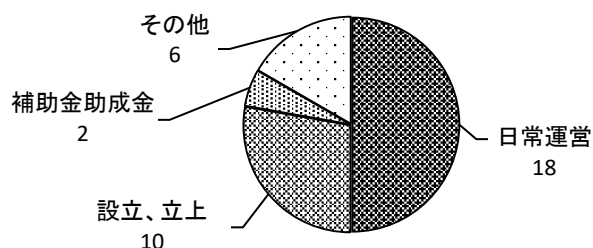
NPO法人設立・運営等相談	実施形態	自主事業	収益	0円
			費用	25,000円

[目的]

NPO法人設立や団体の日常運営、課題解決を支援する。

[事業内容]

電話・FAX・Eメール・来訪などで、計36件の相談に対応した。



IV-4

行政訪問	実施形態	自主事業	収益	0円
			費用	40,000円

[目的]

知多半島全域の10自治体と連携、協働して事業推進に当たるため、定期的に行政訪問を行う。

[事業内容]

知多市とは年間を通して協働し、事業推進や情報交換を実施している。また、4市5町(半田市、常滑市、大府市、東海市、阿久比町、東浦町、武豊町、美浜町、南知多町)とは、総会後の6月に当該地域の会員団体とともに行政訪問を行い、事業報告と情報交換を実施した。

[担当者のふりかえり]

行政からの情報として、行政ができていない、あるいは新しい社会的課題に関する情報や、社会的課題についての今後の行政の政策に関する情報などを得ることができた。訪問先に対しては、当法人が20周年を迎えることを報告し、これまでの支援へのお礼と、今後の協働関係への協力をお願いした。(伊藤裕)

V 市民活動支援事業

V-1 市民活動団体事務局支援事業

市民活動の自発的・継続的活動をめざすための事務局運営の支援

(1)

手づくりカフェ「Ada-coda」	実施形態	自主事業	収益	2,253,714円
			費用	2,281,295円


[目的]

誰もが自分色で輝ける場の提供と「食」を通じたコミュニティづくりの応援。

[事業内容]

通年 知多市市民活動センター 交流室 ワンデイシェフ登録数28人(15団体)、来店者数2,665人

ワンデイシェフに登録した一般市民・団体が提供するランチ等の活動をサポート及びコーディネートを行う。通常営業の他に、イベントや長期休暇を利用した中学生・高校生シェフのレストラン営業のサポートを行った。

中学生レストラン	知多市産業まつり	ママと子どものランチタイム
		
8/1、8/2 星槎名古屋中学校料理部	10/26 シェフ合同出店(登録シェフ7人)	毎月第3月曜日(8回) 絵本の読み聞かせボランティア とランチのコラボ

[担当者のふりかえり]

登録シェフの減少で常設営業が難しくなっている。生活環境の変化で活動回数の減少や登録を解除するなどが主な理由であるが、人を巻き込み続けないと繋がっていかない。次年度は、シェフ同士の交流を中心に人の輪が広がるよう尽力していく。通常営業以外では、中学生レストラン、知多市産業まつり、ママと子どものランチタイムを開催した。(竹内由香理)

(2)

ベティ基金事務局	実施形態	委託事業(株式会社RandTカンパニー)	収益	231,000円
			費用	231,000円

[目的]

制度によらない障がい者福祉活動を行うボランティア団体・NPO法人等を応援するベティ基金の助成に関する事務を行うことで、団体支援及び地域交流につなげる。

[事業内容]

日程	場所	内容	担当
4/26、8/16、12/20	知多市市民活動センター	申請書検討会議 助成決定内容は下表のとおり	今井友乃(当法人理事) 市野恵
11/17	介護付有料老人ホーム ベティさんの家 太田川	交流会 6団体(10人)+ベティさんの家(3人)+事務局(2人)	市野恵 江端智子
2月～3月	当法人事務所	啓発促進用チラシ 1000部	久田富二子

[助成決定内容]

助成月	助成決定団体 / 団体概要	助成事業	助成額
5月	(一社)BumpyCompany / 児童発達支援	乳幼児期親子サークルで使用する玩具・マット	12万円
9月	LOVE CANDIES / ダウン症の子どもをもつ親の会	障がいのある子と家族の交流イベント開催(知多市地域未来館(11/17))	10万円

	知多市手をつなぐ育成会「いるかの教室」 / 障がい者支援(本人と家族) 日本福祉大学学生ボランティアサークルと共に企画	バス旅行(家族とボランティアさんと東山動物園へ遠足)	10万円
	とこっ子親の会 / 障がいの子を持つ親の会	障がい児のカフェ活動で利用する電解水生成装置(手指の洗浄・除菌)購入の一部	29.4万円
1月	(一社)南知多ユニバーサルビーチプロジェクト / ユニバーサルビーチプロジェクト	砂浜の走破が可能な専用車イス「サンドライダー」購入	10万円
	(一社)BumpyCompany / 児童発達支援	大型ベビーカー、ホワイトボード購入	10万円
	(一社)サポートネットゆっか / ひきこもり状態が見られる方への就労体験の場事業	ワークスペースでの材料費及び生活困窮利用者への交通費補助	10.2万円

[担当者のふりかえり]

基金発足し5年が経過した。今年の交流会では、活動を継続しているからこそその課題も聞いた。そうした課題解決の際にも、この基金でつながった横の関係性が大切なのだと感じている。活動を継続、発展させていくために、本基金が有意義に活用されることを期待する。(江端智子)

(3)

研修講座運営事務局	実施形態	委託事業((N)知多地域成年後見センター)	収益	489,208円
			費用	453,200円

[目的]

会員団体が主催する事業の事務局運営を支援する。

[事業内容]

	事業名	日程	開催場所	担当
1	成年後見サポーター養成研修	前期:6/14-7/19	全6回 武豊町中央公民館	竹内由香理
		後期:1/17-2/21	全6回 東海市立勤労センター	
2	権利擁護サポーター講座(引継ぎ)	9/6-11/22	全9回 美浜町生涯学習センター	安藤千栄子
3	ちた半島ろうスクール	10/10-11/21	全7回 美浜町生涯学習センター	江端智子

V-2 知多市市民活動センター支援事業

(1)

市民活動センター管理・相談	実施形態	委託事業(知多市市民協働課)	収益	8,848,260円
			費用	8,848,260円

[目的]

市民・コミュニティ・市民活動団体及び事業者が自発的に行う、共益・公益活動を促進するための事業を実施及び機能の充実を図ることにより市民協働のまちづくりに寄与する。

[事業内容]

- ①市民活動に関する相談業務
- ②市民活動のための場所の提供業務
- ③センター使用料徴収業務(右表)
- ④市民活動に関する情報の収集及び提供業務
 - ・行政や市内外の活動団体等からの情報は、交流スペース・ラック・掲示板・ホームページを活用し、発信した。
 - ・団体の情報もファイルを整理して発信した。

月	稼働日数(日)	①相談(件数)	②場所の提供業務			③使用料徴収業務(件数)
			市民活動室利用(人)	会議室利用(人)	夜間管理(時間)	
4月	28	4	480	887	40.0	79
5月	27	5	374	827	32.0	76
6月	30	6	438	878	20.0	86
7月	30	9	401	1166	27.5	59
8月	30	6	344	676	31.0	71
9月	28	11	379	952	32.5	87
10月	28	5	448	1236	56.0	52
11月	29	6	387	1487	51.0	83
12月	28	6	319	819	30.5	55
1月	27	4	392	741	16.0	63
2月	27	8	376	590	10.5	59
3月	30	3	253	21	0.0	33
計	342	73	4591	10280	347	803

⑤その他市民活動の推進に必要な業務

・waiwai交流会(年2回) センター登録団体を対象に情報交換会を開催した。

	日程	テーマ	講師	参加者数
1	7/31	楽しい工作&新聞を作ろう	チッター知ろう会 6人 末廣会 5人	24人
2	2/26	災害時の備えと役立つアプリの活用	片山清勝、藤田智己(防災危機管理課) 大野進(まうすの会)	15人

(2)

市民活動センター清掃	実施形態	委託事業(知多市市民協働課)	収益	1,126,944円
			費用	1,126,944円

[目的]

障がいの有無に関わらず、働く意欲のある人への就労の場の提供およびそのコーディネート。

[事業内容]

週5日のセンター館内の清掃業務(年間245日)及び清掃具・消耗品の管理。

(3)

まちづくり人材育成事業	実施形態	委託事業(知多市市民協働課)	収益	512,376円
			費用	512,376円


[目的]

地域との結びつきや人間同士の絆の弱体化が進む社会において、今後の市民活動の担い手として不可欠な次世代を対象に地域や市民活動団体の魅力の気づきと活動の場を提供することで、積極的にまちづくりに携わる人材を育成する。

[事業内容]

健康と生きがいをテーマに、活動への関心や参加者同士の交流を促し、主体的に学び関わる契機となる講座を企画運営及び会計事務を遂行した。知多市まちづくり人材育成事業行委員会は、知多市総合ボランティアセンター、市民大学ちた塾、地域福祉サポートちたの三者が協定し、協働運営を行った。

	コース	日程	内容	講師・担当	参加者数
1		6/22	開校式 ・話題提供「地域社会とは？」 ・事例発表 ・交流会(自己紹介、健康チェック)	河村康英(知多市社会福祉協議会地域福祉課課長) 岡戸千尋(ちたMaMa) 日比野徳男(ちたざっくやろう会) 佐藤めぐみ、東陽子、敦賀不二佳(保健センター職員)	25人
2	健康	7/6	食と健康	宝かずみ(手づくりカフェAda-coda登録シェフ菜チュレ)	18人
3		8/3	バレエヨガ	菊谷千恵((N)市民大学ちた塾登録講師)	12人
4		9/7	正しい姿勢・ゆがみとりのコツ	生田祐江(個人登録ボランティア)	22人
5	生きがい	7/20	笑いヨガ	佐藤真由美((N)市民大学ちた塾登録講師)	21人
6		8/17	地域づくりの実践 ・地域包括ケアシステムとは? ・つつじが丘地区事例紹介 ・多世代、多文化共生による朝倉団地の再生 ・ワークショップ	竹内紀之(知多市総合ボランティアセンター) 杉浦理恵(知多市市民協働課統括主任) 土田裕記(知多市社会福祉協議会地域福祉課生活支援コーディネーター)	14人
7		9/21	遠足	(N)ゆいの会、南粕谷ハウス	17人

8	10/5	閉校式 ・落語講演会 ・参加者振り返り ・登録団体紹介		月の輪 熊八 吉田哲男(まうすの会) 下村一美((N)ゆいの会代表理事) 勝崎芳雄(岡田ゆめみたい)	21人
---	------	--------------------------------------	---	---	-----

※グレー部分は、当法人以外の団体が企画。

[担当者のふりかえり]

参加者は60歳代、70歳代がほとんどで、健康や生きがいのテーマに関心が高いとわかった。短い期間に何度も顔を合わせたことで参加者同士がうち解け、ボランティア登録や講師が活動する拠点に足を運ぶなどの様子がみられ、次のステップへ進む後押しができた。(竹内由香理)

(4)

まちづくり促進事業(協働のまちづくり講座)	実施形態	委託事業(知多市市民協働課)	収益	249,700円
			費用	253,787円

[目的]

NPOの基礎やまちづくり、プロボノ活動の仕組みについて学び実践する場を推進するとともに、市民活動団体の課題解決、市民活動の活性化を推進する。

[事業内容]

知多市市民活動センター登録団体にプロボノをマッチングし、研修を経て課題解決の支援活動を行った。事務局として連絡調整や活動の場に同席するなど伴走を行った。



[支援希望団体]

知多市ジュニアかるたクラブ

[プロボノ]

企業人、自営業者、地方公務員 3人



	日程	内容	講師	参加者数
1	9/7	プロボノの概要・問題整理の手法を学ぶ	戸成司朗((一社)中部SDGs推進センター代表理事、(N)中部プロボノセンター共同代表理事)	7人
2	9/14	NPOの基礎	市野恵	5人
3	9/28	伝わる広報・情報発信のポイント	織田元樹((N)ポラみみより情報局代表理事)	11人
4	10月~2月	支援活動の伴走	市野恵、竹内由香理	8人
5	11/9	登録団体向け説明会 & 中間報告会	戸成司朗((一社)中部SDGs推進センター代表理事、(N)中部プロボノセンター共同代表理事)	10人

[担当者のふりかえり]

事前研修が多く、団体が戸惑われたことがあり、丁寧に説明ができていなかったことは反省点。研修や関係づくりのプロセスは本当の課題を明確にすることや今後のつながりを広げるために必要である。活動を終えて、団体は「メンバーの得意なことや想いが共有できた」、プロボノは「自分にはないスキルを持っている人と活動でき参考になった」と感想が挙げられた。(竹内由香理)



(5)

地域活動担い手育成事業	実施形態	委託事業(知多市市民協働課)	収益	378,095円
			費用	378,095円

[目的]

地域活動を担う人材の養成に係る講座の実施により、地域を担う人材のリーダーシップ、ファシリテーション及びコーディネーター等のスキルアップを図る。また、受講者が他地域の住民及び市民活動団体と交流し、つながりを醸成することで、地域活動の円滑化を図るとともに、新たな取り組みの創出及び既存事業の改革などを推進できる体制をつくる。

[事業内容]

日時・会場	講師	内容	参加者数
1/18 13:30-16:30 知多市役所大会議室	篠原辰二 (一社) Wellbe Design	対象:市内10地区の次年度役員と生活支援コーディネーター コミュニケーションのスキルアップと地域住民の主体的な参画を促し、地域活動を円滑に進めるためのファシリテーションについて、演習を通して学ぶ。 	22人
2/1 9:30-12:30 知多市市民活動センター会議室1、2		対象:市内10地区の今年度役員と次年度役員と生活支援コーディネーター 演習を通じて、具体的に地域活動を進めていくためのコミュニケーションの必要性を体得する。 	35人
3/1	新型コロナウイルス感染症対策のため中止		

[担当者のふりかえり]

各コミュニティ役員は、誰にも相談することなく手探りの状況下にあるため、運営に関する情報交換ができる本研修は有意義なものになっている。また、演習と解説を繰り返しながら進められるため、地域活動におけるリーダーシップのあり方やファシリテーション及びコーディネート等のスキルアップが図れるとして、参加者の事後評価は非常に高い。しかし、単年度で交代する役員個人のスキルアップを目指す集合研修では、新たな取り組みの創出及び既存事業の改革などを推進する体制づくりに到達することは難しいため、これからは、地域の実情に合わせた、集中サポートへの切り替えを提言していきたい。(市野恵)

(6)

若者チャレンジ支援事業「ちた未来塾」	実施形態	委託事業(知多市市民協働課)	収益	800,000円
			費用	800,000円

[目的]



地域の未来を担う若い人たちを対象に、講座・体験・実践活動等を通じて、すでに地域活動を実践している先輩たちとともに学ぶことで、将来、積極的にまちづくりに参加できる人材を育成する。参加者が次年度以降の本事業の企画等に携わることができる循環型の人材育成事業になることを最終目的とする。





[事業内容]

入塾:10人(高校生1年6人・大学2年生1人・社会人3人)

構成:15回(塾6回、体験活動・伴走支援・ミーティング7回、成果報告会1回、課外活動1回)

参加者数:延べ170人

	日程	場所	内容	参加者数
1	6/1	法人事務所	サポーターミーティング	8人
2		知多市市民活動センター	ボランティアリーダーのためのファシリテーション研修  	10人
3	6/9	知多市市民活動センター	入塾式&オリエンテーション	18人
4	6/15	知多市内	フィールドワーク(体験) 受け入れ先3カ所	14人
5	7/14	知多市市民活動センター	フィールドワーク(体験) 報告会	15人
6	8/10	知多市市民活動センター	地域の課題解決に向けた「私のアイデア」作成ワークショップ	11人
7	9/1	法人事務所	サポーターミーティング	6人
8	9/15	知多市市民活動センター	にほんごの会チーム 企画の練り直し・打合せ	5人
9	9/21	知多市市民活動センター	にほんごの会チーム サポーターミーティング	2人
10	9/22	法人事務所	朝倉センタープレイスチーム 打合せ	6人
11	9/29	朝倉センタープレイス	朝倉センタープレイスチーム サポーターミーティング	7人

12	11/4	朝倉センタープレイス	イベント開催 (日本の出汁ワークショップ &読み聞かせ)	 	12人
13	11/9	知多市市民活動センター	卒塾式&報告会	 	12人
14	1/12	知多市市民活動センター	スピノフイベント		13人
15	2/9	朝倉センタープレイス	イベント開催(はじめてのバレンタイン)		31人

実施体制	塾長	吉村輝彦(日本福祉大学国際福祉開発学部教授)
	サポーター (7人)	竹内綾(社会人・元1期サポーター)、森戸力(社会人・元第1期塾生)、坂本実穂(大学2年生・元第3期塾生)、水野太智(大学2年生・第3期塾生)、春日谷友梨(社会人・元第1期塾生)、犬飼ひかる(社会人・元第3期生)、坂口寛知(社会人・元第3期生)
	事務局	久田富二子、藤田まどか、市野恵
受け入れ協力団体	にほんごの会、南粕谷ハウス、朝倉センタープレイス	

[担当者のふりかえり]

卒塾した学生や社会人がサポーターとして活躍する循環が定着しつつある。事業開始前には、サポーターを対象としたファシリテーション研修を行い、本事業のねらいを確認し、こまめにサポーターミーティングを行いながら相互理解を深めた。一方で、塾生の高校生や大学生は学業やクラブ活動、バイト等多忙な中での参加には制約がある。その中でいかに成果を生み出すのが毎年の課題となっている。(市野恵)

VI 会議の開催に関する事項

	会議名	内容	参加者	場所 / 日程
1	通常総会	定款の定めるところによる通常総会開催	会員 39 人 (委任状含)	知多市市民活動センター 5/30
2	理事会	定款の定めるところによる理事会開催	理事	知多市市民活動センター、法人事務所 年6回(5/20、5/30、9/17、11/18、1/20、3/16)
3	常務理事会	理事会の議決に基づく常務理事会の開催	理事	法人事務所 7/22
4	担当者ミーティング	①福祉人材育成事業グループ ②総務グループ	各担当者	法人事務所 ①6/12、7/19、10/29、11/26、12/9、1/27、3/23、3/30 ②6/28、7/26、8/29、9/24、10/15、11/13、12/24、1/17、1/24、2/20、3/2、3/12
5	スタッフミーティング	事業進捗報告・共有の場 市民活動センター事業改善の場	スタッフ全体	法人事務所 4/1、5/7、6/3、7/1、8/5、9/2、10/7、11/5、12/2、1/6、2/3、3/2